

**Stream7R-USB/Touch7R-USB 共通**

# **システム設定マニュアル**

## 商標について

- 本書中の製品名および会社名は、それぞれ各社の商標もしくは登録商品です。
- 本書の内容につきましては万全を期して作成致しておりますが、万一ご不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社まで御連絡ください。
- 本書に記載されている事項は、予告なく変更する場合があります。
- 本書の一部または、全部を無断で複製することは禁止されております。個人としてご利用になるほかは、著作権法上、弊社に無断で使用することを禁じます。

# 目次

商標について .....	1
目次 .....	2
本書の見方 .....	5
■表記上の注意.....	5
設定バーコード表の見方 .....	5
設定手順.....	6
1 設定項目および初期設定.....	7
1-1 読み取り可能なコードと初期設定 .....	7
1-2 データ出力設定 .....	8
1-3 読み取りオプション.....	8
2 設定の詳細 .....	9
2-1 設定の初期化.....	9
2-2 読み取りコード .....	10
■単独読み取り設定 .....	10
■読み取り許可設定 .....	11
■C/D (チェックデジット) 計算の設定 .....	12
■C/D (チェックデジット) 転送の設定 .....	13
■スタート/ストップキャラクタ転送の設定.....	15
■コード別プリフィックスの付加の設定 .....	16
■コード別サフィックスの付加の設定 .....	19
2-3 データ出力設定 .....	22
■コモンプリフィックスの付加の設定 .....	22
■コモンサフィックスの付加の設定 .....	23
■送信速度の設定 .....	25
2-4 読み取りオプション.....	26
■読み取り桁数の設定 .....	26
■読み取り方式の設定 .....	27
■トリガスイッチの設定.....	28
■読み取り時間の設定 .....	29
■2度読み防止タイマー時間の設定 .....	30
■オートトリガの設定 .....	31
■反転バーコード読み取り設定 .....	32
■ブザー音量の設定 .....	33
■ブザー音の設定 .....	34
3 GS1-128 読み取り設定 .....	35
3-1 出力設定仕様概要 .....	35
■出力モード1 .....	36

■出力モード 2.....	36
■出力モード 3.....	36
■出力モード 4.....	36
3-2 GS1-128 読み取り設定.....	37
3-3 区切り文字の設定.....	38
3-4 出力モード 1 の設定方法.....	40
3-5 その他の設定.....	41
3-6 出力モード 1 用AI設定表.....	42
3-7 出力例.....	52
■出力モード 1.....	52
■出力モード 2.....	53
■出力モード 3.....	53
■出力モード 4.....	54
4 データウィザード.....	55
4-1 仕様概要.....	55
■マッチング条件.....	55
■ビルド設定.....	56
■最終設定.....	57
4-2 編集設定選択.....	58
4-3 マッチング条件.....	59
■バーコードIDの設定.....	59
■バーコード長の設定.....	59
■バーコードキャラクタの設定.....	60
4-4 ビルド設定.....	61
■出力ビルド.....	61
■除外パート.....	63
4-5 最終設定.....	64
■キャラクタ置換.....	64
■出力長の変更.....	65
4-6 バーコードID表.....	66
4-7 編集の有効・無効設定.....	67
■編集設定を有効にする.....	67
■編集設定を無効にする.....	68
4-8 オプション設定.....	69
4-9 設定例.....	70
5 付録.....	75
付録 1 直接入力コード表.....	75
■直接数字入力.....	75
■直接アルファベット大文字入力.....	76

■直接アルファベット小文字入力.....	78
■直接キーボードキー入力.....	80
■直接記号入力.....	82
■直接制御キャラクタ入力.....	84
■コード長入力.....	86
付録 2 サンプルバーコード.....	87

## 本書の見方

本書では、読み取りを行うバーコードの種類を増やしたい、データの出力形式を変更したい等、機器をカスタマイズするための設定方法を記載しています。

### ■表記上の注意

本書では、次の表記が使用されています。

<b>注意</b>	守って頂きたい事項、操作上、使用上の注意を要する事項を記載しています。この記載をよくお読みになり、必ず指示に従ってください。
<b>参考</b>	役立つ情報やヒントとなる情報を記載しています。
<b>参照</b>	関連する情報が記載されているページや、他のマニュアルを紹介しています。
『 』	設定を行うバーコードの項目を意味しています。

## 設定バーコード表の見方

設定の概要を記載しています。

出力データの先頭に付加するプリフィックスを設定します ★印は初期設定		
1	設定開始	 z z
2	コモンプリフィックスを設定する	 M z
3	「付録 直接入力コード」から出力したい順番に読み取る (クリアの場合は『設定終了』を読み取る)	
4	設定終了	 z z

設定項目

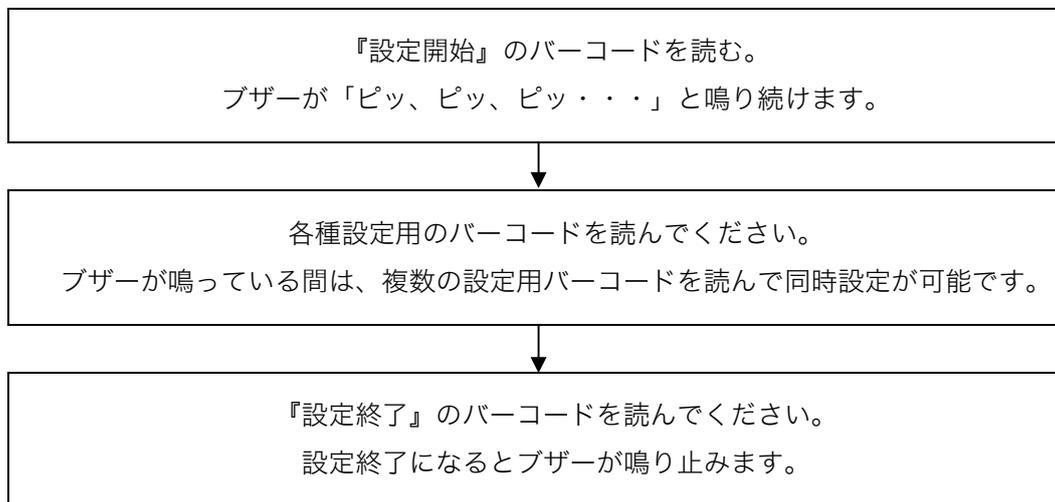
設定用バーコード

順番に読ませる必要がある場合に記載しています。同じ番号がある場合は、どれか1つを選びます。

## 設定手順

各項目で設定を行う際は、いずれも以下の手順で行ってください。

また、各項目で別途手順がある場合は、その項目の指示に従ってください。



# 1 設定項目および初期設定

「読み取りコード」、「データ出力設定」、「読み取りオプション」の分類で設定ができます。

設定項目および初期設定は表をご覧ください。

## 1-1 読み取り可能なコードと初期設定

コード	読取可否	C/D計算	C/D転送	スタート/ストップ転送	プリフィックス付加	サフィックス付加
UPC-A	○	○※1	○※2	—	無し	無し
UPC-E	○	○※1	○※2	—	無し	無し
JAN/EAN-13	○	○※1	○	—	無し	無し
JAN/EAN-13 アドオン(5桁)	×	○※1	○	—	無し	無し
JAN/EAN-8	○	○※1	○	—	無し	無し
JAN/EAN-8 アドオン(5桁)	×	○※1	○	—	無し	無し
CODE-39	○※3	×	○	×	無し	無し
NW-7	○※3	×	○	×	無し	無し
インターリブド 2of5	○※4	×	○	—	無し	無し
インダストリアル 2of5	○※5	×	○	—	無し	無し
CODE-93	×	○※1	×※1	—	無し	無し
CODE-128	○	○※1	×※1	—	無し	無し
GS1-128	×※6	—	—	—	—	—
GS1 DataBar Omnidirectional	×	○※1	○	—	無し	無し
GS1 DataBar Limited	×	○※1	○	—	無し	無し
GS1 DataBar Expanded	×	○※1	×※1	—	無し	無し

- C/D：チェックデジットを意味します。
- スタート/ストップ：スタートキャラクタ/ストップキャラクタを意味します。
- ○は「読み取る」、「転送する」、「計算する」を、×は「読み取らない」、「転送しない」、「計算しない」を、—は「無効」もしくは、「サポートしていない」を示します。

※1 この設定は変更できません。

※2 C/Dを転送すると共に、データの先頭にも0を付加します。

※3 1桁のバーコードは読み取りできません。

※4 2桁のバーコードは読み取りできません。

※5 4桁までのバーコードは読み取りできません。

※6 GS1-128はCODE-128のオプション扱いです。GS1-128の設定は「GS1-128読み取り設定」を参照してください。

## 1-2 データ出力設定

設定項目	初期設定
コモンプリフィックス	なし
コモンサフィックス	「Enter」キー
送信速度	速度 1(最速)

## 1-3 読み取りオプション

設定項目	初期設定
読み取り桁数	桁数設定無し
読み取り方式	単発読み
読み取り時間	2 秒
2 度読み防止時間(複数読み時)	0.5 秒
オートトリガ	無効
反転コード読み取り	通常のみ
ブザー音量	音量 1(最大)
ブザー音	音 2

## 2 設定の詳細

ここでは「1 設定項目および初期設定」(P. 7) の各項目の詳細と設定変更の方法を説明します。

### 2-1 設定の初期化

出荷時には、あらかじめ「1 設定項目および初期設定」に示される設定になっています。

各種設定を「初期設定」状態に戻したい場合は下のバーコードを上から順に読取ってください。

初期状態に戻します	
設定開始	 Z Z
初期設定	 B A P
設定終了	 Z Z

## 2-2 読み取りコード

### ■ 単独読み取り設定

単独読み取り設定は、設定したコード以外は読めなくなります。複数のコードを設定する場合は、まず1種類のみ設定し、残りは「■読み取り許可設定」(P. 11) で読みたいコードを追加設定してください。

各コードのみ設定します (設定したコード以外は読めません) ★印は初期設定	
設定開始	
UPC のみ読み取り	
JAN/EAN のみ読み取り	
JAN/EAN アドオン(5桁)のみ 読み取り	
CODE-39 のみ読み取り	
NW-7 のみ読み取り	
インターリブド 2of5 のみ読み取り	
インダストリアル 2of5 の読み取り	
CODE-93 のみ読み取り	
CODE-128 のみ読み取り	
GS1 DataBar Omnidirectional のみ 読み取り	
GS1 DataBar Limited のみ 読み取り	
GS1 DataBar Expanded のみ 読み取り	
設定終了	

## ■読み取り許可設定

読み取り許可設定は、読み取りを行いたいコードを追加していきます。

各コードを読み取り可能にします ★印は初期設定	
設定開始	
★UPC の読み取り可	
★JAN/EAN の読み取り可	
JAN/EAN アドオン(5桁)の読み取り可	
★CODE-39 の読み取り可	
★NW-7 の読み取り可	
★インターリブド 2of5 の 読み取り可	
★インダストリアル 2of5 の 読み取り可	
CODE-93 の読み取り可	
★CODE-128 の読み取り可	
GS1 DataBar Omnidirectional の 読み取り可	
GS1 DataBar Limited の 読み取り可	
GS1 DataBar Expanded の 読み取り可	
設定終了	

例

「CODE-39」と「NW-7」の2種類だけを読み取り可能にしたい場合。「■単独読み取り設定」(P. 10)で『CODE-39のみ読み取り』を設定します。次に『NW-7の読み取り可』を追加設定します。この様な方法で2種類のコードだけ読み取り可能に設定できます。

## ■C/D (チェックデジット) 計算の設定

各コードの C/D を計算しない設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
★CODE-39 の C/D 計算しない	
★インターリブド 2of5 と インダストリアル 2of5 の C/D 計算しない	
設定終了	

各コードの C/D を計算する設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
CODE-39 の C/D 計算する	
★インターリブド 2of5 と インダストリアル 2of5 の C/D 計算する	
設定終了	

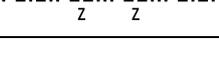
## ■C/D (チェックデジット) 転送の設定

各コードの C/D を転送しない設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
UPC-A の C/D 転送しない (データ先頭に 0 を付加する)	
UPC-A の C/D 転送しない (データ先頭に 0 を付加しない)	
UPC-E の C/D 転送しない (データ先頭に 0 を付加する)	
UPC-E の C/D 転送しない (データ先頭に 0 を付加しない)	
JAN/EAN-13 の C/D 転送しない	
JAN/EAN-8 の C/D 転送しない	
CODE-39 の C/D 転送しない	
インターリーブド 2of5 と インダストリアル 2of5 の C/D 転送しない	
GS1 DataBar の C/D 転送しない	
設定終了	

### 注意

C/D が無いコードの場合は最後の 1 桁を取り除いてしまい、データが欠けてしまいます。

C/D が付いているコードを使用する場合に設定してください。

各コードの C/D を転送するに設定します ★印は初期設定	
設定開始	
★UPC-A の C/D 転送する (データ先頭に 0 を付加する)	
UPC-A の C/D 転送する (データ先頭に 0 を付加しない)	
★UPC-E の C/D 転送する (データ先頭に 0 を付加する)	
UPC-E の C/D 転送する (データ先頭に 0 を付加しない)	
★JAN/EAN-13 の C/D 転送する	
★JAN/EAN-8 の C/D 転送する	
★CODE-39 の C/D 転送する	
★インターリブド 2of5 と インダストリアル 2of5 の C/D 転送する	
★GS1 DataBar の C/D 転送する	
設定終了	

## ■スタート/ストップキャラクタ転送の設定

各コードのスタート/ストップキャラクタを 転送しない設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
★CODE-39 のスタート/ ストップキャラクタを転送しない	
★NW-7 のスタート/ ストップキャラクタを転送しない	
設定終了	

各コードのスタート/ストップキャラクタを 転送する設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
CODE-39 のスタート/ ストップキャラクタを転送する	
NW-7 のスタート/ ストップキャラクタを転送する*	
設定終了	

※ NW-7：スタート/ストップ キャラクタ abcd/abcd を転送します。

## ■コード別プリフィックスの付加の設定

読み取りコードごとに、データの前にキャラクタ等を付加することができます。  
コード別プリフィックスは最大4桁まで設定できます。

コモン プリフィックス (最大8桁)	コード別 プリフィックス (最大4桁)	読み取りデータ	コード別 サフィックス (最大4桁)	コモン サフィックス (最大8桁)
--------------------------	---------------------------	---------	--------------------------	-------------------------

### ●コード別プリフィックスを設定する方法

- ①『設定開始』を読みます。
- ②プリフィックスを付加したいコードを読んだ後、「付録1 直接入力コード表」(P. 75) から出力したい順番で読みます。設定は4桁まで登録可能で、それを超えた場合は警告音が鳴り、設定が無視されます。
- ③『設定終了』を読みます。

### ●設定例

CODE-39 のバーコード「123456789」の先頭に「C3」を付加する場合

- ①『設定開始』を読みます。
- ②『CODE-39 のプリフィックス』を読みます。
- ③「付録1 直接入力コード表」から『C』を読みます。
- ④「付録1 直接入力コード表」から『3』を読みます。
- ⑤『設定終了』を読みます。

CODE-39 のバーコードを読むと「C3123456789」となります。

### 参考

今まで登録されていた全てのコード別プリフィックスをクリアする場合は、『コード別プリフィックスをクリアする』を読んでください。また、各コードのプリフィックスを読むと、以前登録されていた内容がクリアされます。



プリフィックス設定で使用するキャラクタは「付録1 直接入力コード表」(P.75) を参照してください。(設定できないものもあります。)

各コードのプリフィックスを付加する設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
UPC-A のプリフィックス	
UPC-E のプリフィックス	
JAN/EAN-13 のプリフィックス	
JAN/EAN-13 アドオンの プリフィックス	
JAN/EAN-8 のプリフィックス	
JAN/EAN-8 アドオンの プリフィックス	
CODE-39 のプリフィックス	
NW-7 のプリフィックス	
インターリブド 2of5 の プリフィックス	
インダストリアル 2of5 の プリフィックス	
CODE-93 のプリフィックス	
CODE-128 のプリフィックス	
GS1 DataBar のプリフィックス	
設定終了	

すべてのコード別プリフィックスをクリアします。	
設定開始	 Z Z
★コード別プリフィックスを クリアする	 M G
設定終了	 Z Z

## ■コード別サフィックスの付加の設定

読み取りコードごとに、データの後にサフィックス（キャラクタ等）を付加することができます。コード別サフィックスは最大4桁まで設定できます。

コモン プリフィックス (最大8桁)	コード別 プリフィックス (最大4桁)	読み取りデータ	コード別 サフィックス (最大4桁)	コモン サフィックス (最大8桁)
--------------------------	---------------------------	---------	--------------------------	-------------------------

### ●コード別サフィックスを設定する方法

- ①『設定開始』を読みます。
- ②サフィックスを付加したいコードを読んだ後、「付録1 直接入力コード表」(P.75) から出力したいデータを順番で読みます。設定は4桁まで登録可能で、それを超えた場合は警告音が鳴り、設定が無視されます。
- ③『設定終了』を読みます。

### ●設定例

CODE-39 のバーコード「123456789」の後に「ED」を付加する場合

- ①『設定開始』を読みます。
- ②『CODE-39のサフィックス』を読みます。
- ③「付録1 直接入力コード表」から『E』を読みます。
- ④「付録1 直接入力コード表」から『D』を読みます。
- ⑤『設定終了』を読みます。

CODE-39 のバーコードを読むと「123456789ED」となります。

### 参考

今まで登録されていた全てのコード別サフィックスをクリアする場合は、『コード別サフィックスをクリアする』を読んでください。また、各コードのサフィックスを読むと、以前登録されていた内容がクリアされます。



サフィックス設定で使用するキャラクタは「付録1 直接入力コード表」(P.75) を参照してください。(設定できないものもあります。)

各コードのサフィックスを付加する設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
UPC-A のサフィックス	
UPC-E のサフィックス	
JAN/EAN-13 のサフィックス	
JAN/EAN-13 アドオンのサフィックス	
JAN/EAN-8 のサフィックス	
JAN/EAN-8 アドオンのサフィックス	
CODE-39 のサフィックス	
NW-7 のサフィックス	
インターリブド 2of5 のサフィックス	
インダストリアル 2of5 のサフィックス	
CODE-93 のサフィックス	
CODE-128 のサフィックス	
GS1 DataBar のサフィックス	
設定終了	

すべてのコード別サフィックスをクリアします。	
設定開始	 Z Z
★コード別サフィックスをクリアする	 P R
設定終了	 Z Z

## 2-3 データ出力設定

### ■コモンプリフィックスの付加の設定

読み取りコードに関わらず、共通で出力データの先頭にキャラクタ等を付加することができます。

コモンプリフィックスは最大8桁まで設定できます。

コモン プリフィックス (最大8桁)	コード別 プリフィックス (最大4桁)	読み取りデータ	コード別 サフィックス (最大4桁)	コモン サフィックス (最大8桁)
--------------------------	---------------------------	---------	--------------------------	-------------------------

### ●コモンプリフィックスを設定する方法

- ①『設定開始』を読みます。
- ②『コモンプリフィックスを設定する』を読むと、今まで登録されていたコモンプリフィックスがクリアされます。
- ③『コモンプリフィックスを設定する』を読んだ場合は、続けて「付録1 直接入力コード表」(P. 75)から出力したい順番にバーコードを読み取ります。  
設定は8桁まで登録可能で、それを超えた場合は警告音が鳴り、設定が無視されます。
- ④『設定終了』を読むと、新たなコモンプリフィックスが登録されます。

出力データの先頭に付加するプリフィックスを設定します ★印は初期設定		
1	設定開始	
2	コモンプリフィックスを設定する	
3	「付録1 直接入力コード表」から出力したい順番に読み取る (クリアの場合は『設定終了』を読み取る)	
4	設定終了	

## ■コモンサフィックスの付加の設定

読み取りコードに関わらず、共通で出力データの末尾にサフィックスを付加することができます。コモンサフィックスは最大8桁まで設定できます。

コモン プリフィックス (最大8桁)	コード別 プリフィックス (最大4桁)	読み取りデータ	コード別 サフィックス (最大4桁)	コモン サフィックス (最大8桁)
--------------------------	---------------------------	---------	--------------------------	-------------------------

### ●コモンサフィックスを設定する方法

- ①『設定開始』を読みます。
- ②『コモンサフィックスを設定する』を読むと、今まで登録されていたコモンサフィックスがクリアされます。  
(初期設定で登録されている「Enter」もクリアされます。)
- ③「コモンサフィックスを設定する」を読んだ場合は、続けて「付録1 直接入力コード表」(P. 75)から出力したい順番にバーコードを読み取ります。  
設定は8桁まで登録可能で、それを超えた場合は警告音が鳴り、設定が無視されます。
- ④『設定終了』を読むと、新たなコモンサフィックスが登録されます。

出力データの末尾に付加するサフィックスを設定します		
1	設定開始	
2	コモンサフィックスを設定する	
3	「付録1 直接入力コード表」から出力したい順番に読み取る (クリアの場合は『設定終了』を読み取る)	
4	設定終了	

### ●コモンサフィックス設定例

コモンサフィックスの代表的な設定例として「Enter」「Tab」「右矢印 (→)」「右 CTRL」の設定を記載します。

コモンサフィックス設定例 ★印は初期設定		
1	設定開始	 Z Z
2	コモンサフィックスを設定する	 P S
3	★「Enter」を付加する	 7 I
3	「Tab」を付加する	 7 H
3	「右矢印 (→)」を付加する	 7 M
3	「右 Ctrl」を付加する※	 7 X
		 7 X
4	設定終了	 Z Z

※ 右 Ctrl を単体で出力する場合は、2回読み取りしてください。

## ■送信速度の設定

アプリケーションソフトによっては、バーコードを読んだ時に出力データが欠けることがあります。その場合は送信速度を遅くしてください。

送信速度を設定します ★印は初期設定	
設定開始	
★送信速度 1 (速い)	
送信速度 2	
送信速度 3	
送信速度 4	
送信速度 5	
送信速度 6 (遅い)	
設定終了	

## 2-4 読み取りオプション

### ■ 読み取り桁数の設定

読み取り桁数を固定することができます。

#### ● 桁数を設定する方法

- ① 『設定開始』 を読みます。
- ② 『桁数固定を設定する』 を読みます。
- ③ 固定にしたい桁数と同じバーコードを読みます。桁数固定の設定は最大2つまで登録できます。
- ④ 『設定終了』 を読みます。

#### 参考

UPC、JAN/EAN 等の桁数が固定のコードを除いた、全コードに対して有効となります。

読み取り桁数を設定します ★印は初期設定	
設定開始	
★桁数固定を設定しない	
桁数固定を設定する	
設定終了	

## ■読み取り方式の設定

### ●単発読み

トリガスイッチを使用することを前提とした方式で、トリガスイッチを押してバーコードを読むとその時点で読み取り口の照明が消灯します。

### ●複数読み

読み取り口の照明が点灯中であれば、続けてバーコードを読むことができます。ただし、同じバーコードの場合は、指定した時間読み取り口をバーコードから離して2度読み防止を解除する必要があります。

読み取り方式を設定します ★印は初期設定	
設定開始	
★単発読み	
複数読み	
設定終了	

## ■トリガスイッチの設定

トリガスイッチを使用するか、しないかを設定することができます。

トリガスイッチを使用しない場合、読み取り口は点灯したままとなり複数読みを行います。

トリガスイッチ使用の設定をします ★印は初期設定	
設定開始	
★トリガスイッチを使用する	
トリガスイッチを使用しない	
設定終了	

### 参考

トリガスイッチを使用しない設定にした場合、読み取り方式は「複数読み」として動作しますが、常に読み取り状態となります。このモードの場合、「読み取り時間の設定」は無効になります。

## ■ 読み取り時間の設定

読み取りを開始してから読み取り口の照明が消灯するまでの時間を設定することができます。消灯するまでにバーコードを読取ると、経過時間を無効にし、その時点から新たに時間を計測します。

『トリガスイッチ押下中のみ点灯』の場合は、トリガスイッチ機能の設定に関わらず、トリガスイッチを押している間は読み取り口の照明が点灯し続けスイッチを離すと消灯します。

『無限』の場合は、トリガスイッチを押した後、読み取りするまで照明が点灯し続けます。

なお、どの設定の場合も読み取り方式の設定は有効です。

### ● 読み取り時間の設定例

#### ■ 10 秒の設定を行う場合

- ① 『設定開始』 を読みます。
- ② 『1 秒』 を読みます。
- ③ 『読み取り時間 10 倍』 を読みます。
- ④ 『設定終了』 を読みます。

トリガスイッチを押した後、10 秒後に読み取りを停止します。

読み取り時間を設定します ★印は初期設定	
設定開始	
トリガスイッチ押下中のみ点灯	
1 秒	
★2 秒	
4 秒	
6 秒	
読み取り時間 10 倍	
無限	
設定終了	

## ■2度読み防止タイマー時間の設定

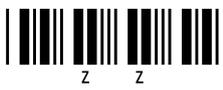
複数読みの場合、読み取り口の照明が点灯中は続けてバーコードを読めますが、同じバーコードの場合、一定の時間読み取り口をバーコードから離して2度読み防止を解除する必要があります。

この時間を設定することができます。

2度読み防止タイマー時間を設定します ★印は初期設定	
設定開始	
0.05 秒	
0.1 秒	
0.2 秒	
0.3 秒	
0.4 秒	
★0.5 秒	
0.6 秒	
無限	
設定終了	

## ■オートトリガの設定

オートトリガを設定すると、紙面やバーコードを検出して自動的に読み取りを開始します。

オートトリガを設定します ★印は初期設定	
設定開始	
★オートトリガを無効にする	
オートトリガを有効にする	
設定終了	



オートトリガは機器に依存した動作になります。

ご使用機器のユーザーズマニュアル、「オートトリガ」の項を参照してください。



ご使用方法や用途、条件等によっては、正常に動作しない場合があります。

## ■反転バーコード読み取り設定

通常は白地に黒色で印刷したバーコードのみ読み取りできますが、反転バーコード読み取り設定を行うと、黒地に白色で印刷したバーコードも読み取りできるようになります。

『反転バーコード』を設定した場合、反転バーコードのみの読み取りができるようになります。

『通常・反転バーコード』を設定した場合、通常と反転の両方のバーコードが読み取りできるようになります。

反転バーコード読み取り設定 ★印は初期設定	
設定開始	
★通常バーコード	
反転バーコード	
通常・反転バーコード	
設定開始・設定終了 (反転用ラベル)	
通常バーコード (反転用ラベル)	
通常・反転バーコード (反転用ラベル)	
設定終了	

### 注意

『反転バーコード』を設定した場合、設定するバーコードも反転したバーコードでの設定となります。『反転バーコード』を設定する場合は、他の設定を行った後に設定を行うか、『通常バーコード』もしくは『通常・反転バーコード』に設定を戻してから他の設定を行ってください。

## ■ブザー音量の設定

ブザー音量を設定します ★印は初期設定	
設定開始	 Z Z
★音量 1 (大)	 T 0
音量 2	 T 1
音量 3	 T 2
音量 4 (小)	 T 3
設定終了	 Z Z

## ■ブザー音の設定

バーコード読み取り時のブザー音を変更することができます。

『ブザー音 1』は「ピ」という単音です。

『ブザー音 2』は「ピロ」という複合音です。

『ブザー音 3』は「ピパ」という複合音です。

ブザー音を設定します ★印は初期設定	
設定開始	
ブザー音 1	
★ブザー音 2	
ブザー音 3	
設定終了	

## 3 GS1-128 読み取り設定

本章の記載内容は、GS1-128 の読み取り設定専用です。

他のコードの設定などには使用できませんのでご注意ください。

### 3-1 出力設定仕様概要

GS1-128 の読み取りデータを目視することによる、データ区切り位置の認識は大変困難です。バーコードスキャナによって、GS1-128 のデータ区切り位置やアプリケーション識別子 (AI) を識別することで、GS1-128 のラベルフォーマットから必要なデータのみを抽出したり、区切り文字を付加したりすることができます。

出力モードは 4 種類用意しています。

GS1-128 ラベルフォーマット



### ■出力モード 1

読み取ったデータから指定した AI のデータフィールドのみを抽出して、指定されたフォーマットで出力します。

AI は最大 10 種類まで指定でき、その AI 毎のデータにヘッダ(最大 2 桁)、ターミネータ(最大 2 桁)を指定できます。

小数点の指定がある AI のデータを読み取った場合は、小数点を付加して出力します。

### ■出力モード 2

GS1-128 のバーコードデータには、AI を区切っているカッコは含まれていません。このモードではデータの表示と同じように AI を ( ) で区切って出力を行います。

### ■出力モード 3

読み取りデータからデータフィールドのみ抽出して出力します。

小数点の指定がある AI のデータを読み取った場合は、小数点を付加して出力します。

### ■出力モード 4

先頭の FNC1 を "]"C1" に変換し、それ以外の FNC1 を "Ctrl+]" として変換します。

その他のデータは通常の CODE-128 と同様に出力します。

#### 注意

出力モード 4 では、GS1-128 のデータ区切り位置を識別しないため、区切り文字等の付加、必要データの抽出等を行えません。

## 3-2 GS1-128 読み取り設定

初期設定では、GS1-128 を使用しないとなっています（GS1-128 は読んでも通常の CODE-128 として出力されます）。

GS1-128 を使用する場合は、出力モードにより下のメニューバーコードを読んでください。

### ● 「GS1-128 を使用する」

「GS1-128 を使用する」に設定します ★印は初期設定	
設定開始・終了	 z z
出力モード 1	「3-4 出力モード 1 の設定方法」 (P.40) 参照
出力モード 2	 x / 2
出力モード 3	 x / 3
出力モード 4	 x / 4

### ● 「GS1-128 を使用しない」

GS1-128 を使用しない場合は以下のメニューバーコードを読んでください。

初期設定ではこの設定になっています。

「GS1-128 を使用しない」に設定します ★印は初期設定	
設定開始・終了	 z z
★GS1-128 を使用しない	 0 F

### 3-3 区切り文字の設定

以下のメニューバーコードを読んだ後に「付録 1 直接入力コード表」(P. 75) を読取ることにより 0 桁から 2 桁までの任意のデータを指定することができます。

区切り文字の設定を行います	
設定開始・終了	
データフィールド内のデータとデータの区切り文字を設定	
エレメントストリングとエレメントストリングの区切り文字を設定	
通常 FNC1 はデータとして出力しないがこれを設定することにより FNC1 をこの設定文字に置き換えます (2 つめ以降の FNC1 のみ)	

出力モード 1 の設定については、「3-4 出力モード 1 の設定方法」(P. 40) をご覧ください。

区切り文字は 2 桁まで設定できるので直接入力コードを続けて 2 回読むと 2 桁の文字が付加されます。区切り文字の設定を初期化するには、「2-1 設定の初期化」(P. 9) を実行してください。

#### 注意

初期設定を実行すると「GS1-128 は使用しない」になります。  
また、その他の設定項目も全て初期状態に戻ります。

処理の遅いホストの場合、データ欠けが起こる場合があります。  
その場合は、以下のディレイを設定してください。

ディレイタイムを設定します ★印は初期設定	
設定開始・終了	
★区切り文字後送信ディレイ =0msec	
区切り文字後送信ディレイ =10msec	
区切り文字後送信ディレイ =20msec	
区切り文字後送信ディレイ =30msec	
★区切り文字後送信ディレイ=1倍	
区切り文字後送信ディレイ=4倍	
区切り文字後送信ディレイ=16倍	
区切り文字後送信ディレイ=64倍	

## 3-4 出力モード 1 の設定方法

出力モード 1 の設定方法を以下に示します。順番にメニューバーコードを読み取ってください。

出力モード 1 の設定手順		
1	設定開始	
2	CODE-128 を読取可能にする	
3	EAN-128 変換を有効にする (モード 1) <sup>*1</sup>	
4	P.42 の「3-6 出力モード 1 用 AI 設定表」からメニューバーコードを読み取る <sup>*2</sup>	
5	ヘッダ 1 の設定 P.75 の「付録 1 直接入力コード表」 から対応するコードを読み取る *ヘッダ 1 無しの場合は右記の メニューバーコードを読み取る	
6	ヘッダ 2 の設定 P.75 の「付録 1 直接入力コード表」 から対応するコードを読み取る *ヘッダ 2 無しの場合は右記の メニューバーコードを読み取る	
7	ターミネータ 1 の設定 P.75 の「付録 1 直接入力コード表」 から対応するコードを読み取る *ターミネータ 1 無しの場合は右記の メニューバーコードを読み取る	
8	ターミネータ 2 の設定 P.75 の「付録 1 直接入力コード表」 から対応するコードを読み取る *ターミネータ 2 無しの場合は右記の メニューバーコードを読み取る	
9	次に出力するアプリケーション識別子の読み取り(上記 4 に戻る)	
10	設定終了	

※1 この時点で現在の出力モード 1 の設定はクリアされます。

※2 設定可能な AI 数は最大 10 個です。設定したい個数分だけ上記の手順 4~9 を繰り返し行ってください。

### 3-5 その他の設定

その他の設定 ★印は初期設定	
設定開始	 Z Z
★YYMMDD 中の DD の表示 = YYMMDD をそのまま出力	 X / E
YYMMDD 中の DD の表示 = DD=00 ならば DD を出力しない	 X / F
★GS1-128 出力モード 1 の時に AI が見つからなければヘッダ、 ターミネータ、エレメントストリング セパレータを出力する	 X / C
GS1-128 出力モード 1 の時に AI が見つからなければヘッダ、 ターミネータ、エレメントストリング セパレータを出力しない	 X / D
★CODE-128 から GS1-128 への変換が できない時、何も出力しない	 X / A
CODE-128 から GS1-128 への変換が できない時、CODE-128 として出力する	 X / B
先頭"]C1"を出力しない	 X / Q
先頭"]C1"を出力する	 X / R
小数点を無効にする	 X / S
小数点を有効にする	 X / T
設定終了	 Z Z

### 3-6 出力モード 1 用AI設定表

設定開始・終了		
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
00	×	
01	×	
02	×	
10	○	
11	×	
12	×	
13	×	
15	×	
17	×	
20	×	
21	○	
22	○	

設定開始・終了	
---------	--

AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
23L ※1	○ (データフィールド長= 2L+1 例. 231 なら 2×1+1=3)	
240	○	
241	○	
250	○	
251	○	
252	×	
30	○	
310D ※2	×	
311D ※2	×	
312D ※2	×	
313D ※2	×	
314D ※2	×	
315D ※2	×	

設定開始・終了	
---------	--

AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
316D ※2	×	
320D ※2	×	
321D ※2	×	
322D ※2	×	
323D ※2	×	
324D ※2	×	
325D ※2	×	
326D ※2	×	
327D ※2	×	
328D ※2	×	
329D ※2	×	
330D ※2	×	
331D ※2	×	

設定開始・終了	
---------	--

AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
332D ※2	×	
333D ※2	×	
334D ※2	×	
335D ※2	×	
336D ※2	×	
337D ※2	×	
340D ※2	×	
341D ※2	×	
342D ※2	×	
343D ※2	×	
344D ※2	×	
345D ※2	×	
346D ※2	×	

設定開始・終了	
---------	--

AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
347D ※2	×	
348D ※2	×	
349D ※2	×	
350D ※2	×	
351D ※2	×	
352D ※2	×	
353D ※2	×	
354D ※2	×	
355D ※2	×	
356D ※2	×	
357D ※2	×	
360D ※2	×	
361D ※2	×	

	設定開始・終了	
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
362D ※2	×	
363D ※2	×	
364D ※2	×	
365D ※2	×	
366D ※2	×	
367D ※2	×	
368D ※2	×	
369D ※2	×	
37	○	
390D ※2	○	
391D ※2	○	
392D ※2	○	
393D ※2	○	

設定開始・終了	
---------	--

AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
400	○	
401	○	
402	○	
403	○	
410	×	
411	×	
412	×	
413	×	
414	×	
415	×	
420	○	
421	○	
422	○	

設定開始・終了		
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
423	<input type="radio"/>	
7002	<input type="radio"/>	
7030	<input type="radio"/>	
7031	<input type="radio"/>	
7032	<input type="radio"/>	
7033	<input type="radio"/>	
7034	<input type="radio"/>	
7035	<input type="radio"/>	
7036	<input type="radio"/>	
7037	<input type="radio"/>	
7038	<input type="radio"/>	
7039	<input type="radio"/>	
8001	<input type="radio"/>	

設定開始・終了		
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
8002	<input type="radio"/>	
8003	<input type="radio"/>	
8004	<input type="radio"/>	
8005	<input type="radio"/>	
8006	<input type="radio"/>	
8007	<input type="radio"/>	
8008	<input type="radio"/>	
8018	<input type="radio"/>	
8020	<input type="radio"/>	
8100	<input type="radio"/>	
8101	<input type="radio"/>	
8102	<input type="radio"/>	
90	<input type="radio"/>	

設定開始・終了	
---------	--

AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
91	○	
92	○	
93	○	
94	○	
95	○	
96	○	
97	○	
98	○	
99	○	

※1 このLはレングスを表しています

※2 このDは小数点位置を表しています

## 3-7 出力例

各出力モードの例を記載します。

### ■出力モード 1

元データ



出力結果

04912345678904	"Tab"	(	ABC123	)
↑	↑	↑	↑	↑
AI(01)の データ	AI(01)の ターミネータ 1	AI(10)の ヘッダ 1	AI(10)の データ	AI(10)の ターミネータ 1

設定内容

※1 つ目のアプリケーション識別子 (01)

ヘッダ 1 : 無し    ヘッダ 2 : 無し    ターミネータ 1 : "TAB"    ターミネータ 2 : 無し

※2 つ目のアプリケーション識別子 (10)

ヘッダ 1 : "("    ヘッダ 2 : 無し    ターミネータ 1 : ")"    ターミネータ 2 : 無し

1. 『設定開始』
2. 『CODE-128 を読み取り可能にする』
3. 『GS1-128 を使用する (モード 1)』
4. 『01』 (アプリケーション識別子の設定)
5. 『無し』 (ヘッダ 1 の設定)
6. 『無し』 (ヘッダ 2 の設定)
7. 『Tab』 (ターミネータ 1 の設定)
8. 『無し』 (ターミネータ 2 の設定)
9. 『10』 (アプリケーション識別子の設定)
10. 『(』 (ヘッダ 1 の設定)
11. 『無し』 (ヘッダ 2 の設定)
12. 『)]』 (ターミネータ 1 の設定)
13. 『無し』 (ターミネータ 2 の設定)
14. 『設定終了』

## ■出力モード 2

元データ



(01)04912345678904 (17)990101 (10)ABC123

出力結果

<u>(01)</u>	04912345678904	<u>(17)</u>	990101	<u>(10)</u>	ABC123
↑		↑		↑	
AI		AI		AI	

設定内容

1. 『設定開始』
2. 『CODE-128 を読み取り可能にする』
3. 『GS1-128 を使用する (モード 2)』
4. 『設定終了』

## ■出力モード 3

元データ



(01)94956789151909 (3102)001234 (11)120401 (21)123456789012

出力結果

94956789151909	<u>"Tab"</u>	0012.34	<u>"Tab"</u>	120401	<u>"Tab"</u>	123456789012
	↑		↑		↑	
	セパレータ		セパレータ		セパレータ	

設定内容

1. 『設定開始』
2. 『CODE-128 を読み取り可能にする』
3. 『GS1-128 を使用する (モード 3)』
4. 『エレメントストリングの区切り文字を設定』
5. 『Tab』
6. 『設定終了』

## ■出力モード 4

元データ



(01)04912345678904(17)120101(30)1000(10)1234567

出力結果

"]C1" 0104912345678904 17120101 "Ctrl+]" 101234567

↑

↑

GS1-128 先頭の FNC1 を変換 可変長データ終端の FNC1 を変換

設定内容

1. 『設定開始』
2. 『CODE-128 を読み取り可能にする』
3. 『GS1-128 を使用する (モード 4)』
4. 『設定終了』

### 参考

先頭の"]C1"は、「3-5 その他の設定」の『先頭"]C1"を出力しない』を設定することで、出力しないようにすることができます。

可変長データ終端のFNC1 は、「3-3 区切り文字の設定」の『FNC1 を設定文字に置き換える(2 つめ以降のFNC1 のみ)』を設定することで、他のキャラクタに変更することができます。

## 4 データウィザード

### 4-1 仕様概要

データウィザードは、ホスト側のシステムを変更することなく、バーコードリーダーで読み取ったデータを指定したフォーマットに変更することができます。バーコードデータの変更は、データの消去、追加、置換、再配列等があります。データウィザードの設定を1つ以上使用することで、読み取りデータの取り扱い方法を正確に設定することができます。

データウィザードは、3つのステップから構成されており、これらの3つを順番に設定する必要があります。

1. マッチング条件
2. ビルド設定
3. 最終設定

最終的に『設定を保存』を行うことで、編集内容を保存でき、自動的に設定が有効となります。

『設定を保存』を行わずに『開始』『終了』を行うと、編集中の内容は失われます。

編集の設定は1~8の最大8個まで保存でき、各設定を有効・無効にすることができます。

#### ■ マッチング条件

マッチング条件は、編集を行う対象（条件）を指定するための設定です。マッチング条件を指定することで、条件に合った場合のみ、出力ビルドや最終設定で指定したとおりにデータを出力します。条件を指定しない場合は全てのものを対象とした設定となります。

マッチング条件には、以下の3つの条件を指定することができます。

- バーコード ID (対象バーコード) マッチング
- バーコード長マッチング
- バーコードキャラクタマッチング (任意位置 / 指定位置)

条件にマッチするかの判定は『編集設定 1』から行います。

同じような条件を設定する場合は、条件の厳しいものを『編集設定 1』から順番に設定してください。

(例) 編集設定 1 の条件 : CODE39 のバーコード

編集設定 2 の条件 : 全バーコード対象

※逆に設定すると、全バーコード対象の編集 (編集設定 2 の内容) しか動作しなくなってしまう。

## ■ビルド設定

ビルド設定は、出力するデータのフォーマットを決める設定を行います。ビルド設定は複数回設定することができ、設定した順番が出力する順番となります。

ビルド設定は以下の設定があります。

### キャラクタ追加パート

- キャラクタを追加

### 開始パート

- 開始位置を指定（前方位置 / 後方位置）
- キャラクタから開始（指定キャラクタを含む / 含まない）
- 除外開始位置を指定（前方位置 / 後方位置）
- キャラクタから除外開始（指定キャラクタを含む / 含まない）

### 終了パート

- パート長
- 後方位置終了
- キャラクタで終了（指定キャラクタを含む / 含まない）

キャラクタを追加以外の内容は、開始パート→終了パートの順で設定します。

## ●位置の考え方

前方位置とは、先頭から数えた番号のことを言います。（一番左端のキャラクタを基準としています）  
1桁目：0、2桁目：1、…、n桁目：n-1

後方位置とは、末尾から数えた番号のことを言います。（一番右端のキャラクタを基準としています）  
n桁目：0、n-1桁目を1、…、1桁目：n-1

前方/後方位置の考え方(7桁のデータ[4912345]の場合の例)

データ	4	9	1	2	3	4	5
前方位置	00	01	02	03	04	05	06
後方位置	06	05	04	03	02	01	00

前方/後方位置の考え方(12桁のデータ[A1234567890B]の場合の例)

データ	A	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	B
前方位置	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11
後方位置	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00

### ●除外について

除外は「キャラクタから開始」や、「キャラクタで終了」を指定している場合に有効な設定です。例えば、「-」という文字が二つ以上入っている場合、二つ目以降の“-”を対象としたい場合でも、最初の“-”しか対象にできません。除外を最初の“-”まで適用してから「キャラクタから開始」を行うことで、二つ目の“-”を対象とすることができるようになります。

### ■最終設定

最終設定は、以下の設定を行うことができます。

- キャラクタを置換
- 出力長の変更

キャラクタ置換は、出力データ内にあるキャラクタを、他のキャラクタに置き換えます。置換は 5 つまで登録できます。

出力長の変更は、最終的な出力データ長を固定することができます。出力長変更の動作は以下のとおりです。

1. 出力長で指定した長さより短いデータの場合、指定した長さになるまで、キャラクタを先頭または末尾に挿入します
2. 出力長で指定した長さより長いデータの場合、指定した長さになるまで、先頭または末尾のデータを削除します。

## 4-2 編集設定選択

編集内容を設定する番号を選択します。

編集設定を選択します	
設定開始・終了	
編集設定 1	
編集設定 2	
編集設定 3	
編集設定 4	
編集設定 5	
編集設定 6	
編集設定 7	
編集設定 8	
次に「4-3 マッチング条件」の設定を行います。 設定を最初から行う場合は『設定開始・終了』を読み取ります。	

## 4-3 マッチング条件

マッチング条件では、「バーコード ID」「バーコード長」「バーコードキャラクタ」の3つ条件を順番に設定します。

### ■バーコードIDの設定

対象とするバーコードの ID を設定します	
設定開始・終了	
1	バーコード ID を指定しない (全バーコードを対象とする)
1	バーコード ID を指定する
2	対象とするバーコードの ID を設定します。 (「4-6 バーコードID表」から設定)
次に「■バーコード長の設定」を行います。 設定を最初から行う場合は『設定開始・終了』を読み取ります。	

### ■バーコード長の設定

対象とするバーコードの長さを設定します	
設定開始・終了	
1	バーコード長を指定しない
1	バーコード長を指定する
2	桁数 (1-99) を設定します。(最大 2 桁) <sup>*1</sup> (「付録 1 直接入力コード表」の「直接数字入力」から設定)
次に「■バーコードキャラクタの設定」を行います。 設定を最初から行う場合は『設定開始・終了』を読み取ります。	

\*1 2を設定する場合、『2』、もしくは、『0』→『2』の順に設定します。  
10を設定する場合、『1』→『0』の順に設定します。

## ■バーコードキャラクタの設定

バーコードのキャラクタ条件を指定します。

任意位置を設定した場合、指定したキャラクタと同じ場合を条件とします。

指定位置を設定した場合、指定した位置にあるキャラクタが、指定したキャラクタと同じ場合を条件とします。

対象とするバーコードのキャラクタを設定します	
設定開始・終了	
1	バーコードキャラクタを指定しない 
1	バーコードキャラクタを指定する (任意位置) 
2	キャラクタを指定します。(最大 8 桁) <sup>※1</sup> (「付録 1 直接入力コード表」から設定)
1	バーコードキャラクタを指定する (指定位置) 
2	指定位置を 2 桁で設定します。 <sup>※2</sup> (「付録 1 直接入力コード表」の「直接数字入力」から設定)
3	キャラクタを指定します。(最大 8 桁) <sup>※1</sup> (「付録 1 直接入力コード表」から設定)
次に「4-4 ビルド設定」を行います。 設定を最初から行う場合は『設定開始・終了』を読み取ります。	

※1 491 を設定する場合、『4』→『9』→『1』の順に設定します。

※2 5 (1 桁) を設定する場合、『0』→『5』の順に設定します。

## 4-4 ビルド設定

ビルド設定は、出力ビルド、除外パートの二つから構成されています。最低 1 つ以上設定する必要があります。

### ■出力ビルド

『前方位置から開始』は、先頭から数えた位置からデータの出力を開始します。

『後方位置から開始』は、末尾から数えた位置からデータの出力を開始します。

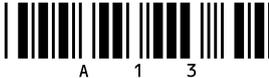
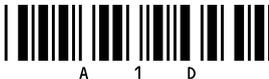
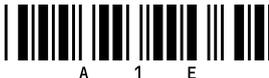
『キャラクタから開始』は、指定したキャラクタが最初に見つかった所からデータの出力を開始します。キャラクタを含む場合は指定したキャラクタから開始し、キャラクタを除く場合は、指定キャラクタの次からデータの出力を開始します。

『後方位置で終了』は、末尾から数えた位置でデータの出力を終了します。

『キャラクタで終了』は指定したキャラクタが最初に見つかった所からデータの出力を終了する設定です。キャラクタを含む場合は指定したキャラクタで終了し、キャラクタを除く場合は、指定キャラクタの前でデータの出力を終了します。

『パート長』は指定した桁数分出力するのに使用します。

「～から開始」と「～で終了」(パート長含む) はセットになっています。「～から開始」の設定後、「～で終了」を行ってください。例えば、『前方位置から開始』を選択し、位置を 2 桁設定後、『後方位置で終了』を選択し、位置を 2 桁設定します。

出力ビルドの設定を行います		
設定開始・終了		
	キャラクタを追加する※2	
開始 パート	前方位置から開始※1	
	後方位置から開始※1	
	キャラクタから開始※2 (キャラクタを含む)	
	キャラクタから開始※2 (キャラクタを除く)	
終了 パート	パート長※1	
	後方位置で終了※1	
	キャラクタで終了※2 (キャラクタを含む)	
	キャラクタで終了※2 (キャラクタを除く)	
<p>必要があれば、「■除外パート」の設定も行ってください。 ビルド設定が完了したら、次の「4-5 最終設定」を行います。 設定を最初から行う場合は『設定開始・終了』を読み取ります。</p>		

※1 位置、長さを「付録1 直接入力コード表」の「直接数字入力」から設定します。

※2 キャラクタを「付録1 直接入力コード表」から設定します。

## ■除外パート

除外パートは、出力ビルドのオプションとなります。出力ビルドで、『キャラクタから開始』や『キャラクタで終了』のキャラクタを検索する際に、除外を指定することで、除外部分のキャラクタを検索しなくなります。除外パートを設定した後に出力ビルドを設定しない場合や、キャラクタを使用する設定を行わない場合は効果がありません。

除外パートの設定を行います		
設定開始・終了		
開始 パート	前方位置から除外開始 <sup>※1</sup>	
	後方位置から除外開始 <sup>※1</sup>	
	キャラクタから除外開始 <sup>※2</sup> (キャラクタを含む)	
	キャラクタから除外開始 <sup>※2</sup> (キャラクタを除く)	
終了 パート	パート長 <sup>※1</sup>	
	後方位置で終了 <sup>※1</sup>	
	キャラクタで終了 <sup>※2</sup> (キャラクタを含む)	
	キャラクタで終了 <sup>※2</sup> (キャラクタを除く)	
ビルド設定が完了したら、次に「4-5 最終設定」を行います。 設定を最初から行う場合は『設定開始・終了』を読み取ります。		

※1 位置、長さを「付録1 直接入力コード表」の「直接数字入力」から設定します。

※2 キャラクタを「付録1 直接入力コード表」から設定します。

## 4-5 最終設定

最終設定では、「キャラクタの置換」、「出力長の変更」の2つを順番に設定します。

### ■キャラクタ置換

キャラクタの置換は、最終的なデータ（編集後のデータ）に対して行われます。

キャラクタ置換を設定します	
設定開始・終了	
1	キャラクタを置換しない 
1	キャラクタを置換する 
2	変換前のキャラクタを指定します。 （「付録1 直接入力コード表」から設定）
3	変換後のキャラクタを指定します。 （「付録1 直接入力コード表」から設定）
4	他の変換設定を行う場合は、『キャラクタを置換する』 の1～3を行います。（最大5個まで）
次に「■出力長の変更」を行います。 設定を最初から行う場合は『設定開始・終了』を読み取ります。	

## ■出力長の変更

最終的な出力長を変更することができます。最終的なデータが出力長で指定した桁数を超えた場合は、先頭または、末尾のデータを削除して、出力長で指定した桁数にします。最終的なデータが出力長で指定した桁数未満の場合は、先頭または、末尾に指定したキャラクタを挿入し、出力長を指定した桁数にします。

出力長を変更する場合は、挿入、削除を先頭または末尾どちらにするかを選択します。

出力長の変更を設定します	
設定開始	
1	出力長を変更しない 
1	出力長を変更する (先頭挿入 / 末尾削除) 
1	出力長を変更する (末尾挿入 / 先頭削除) 
1	出力長を変更する (先頭挿入 / 先頭削除) 
1	出力長を変更する (末尾挿入 / 末尾削除) 
2	出力長の桁数を設定します。(4桁) <sup>※1</sup> (「付録1 直接入力コード表」から設定)
3	挿入するキャラクタを設定します。(1桁) (「付録1 直接入力コード表」から設定)
設定を保存する	
設定終了	

※1 5 (1桁) を設定する場合、『0』 → 『0』 → 『0』 → 『5』の順に設定します。

## 4-6 バーコードID表

バーコードID表は「4-3 マッチング条件」の「バーコードIDの設定」で使用します。

バーコード ID 表	
UPC-A	 0 C
UPC-E	 0 D
JAN/EAN-13	 0 B
JAN/EAN-13 アドオン(5桁)	 0 M
JAN/EAN-8	 0 A
JAN/EAN-8 アドオン(5桁)	 0 K
CODE-39	 0 V
NW-7	 0 R
インターリブド 2of5	 0 N
インダストリアル 2of5	 0 O
CODE-93	 0 U
CODE-128	 0 T
GS1 DataBar	 S Y

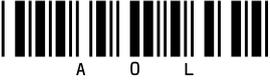
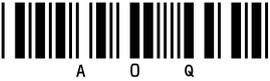
## 4-7 編集の有効・無効設定

使用しなくなった編集内容を無効にしたり、無効にしている編集内容を有効にしたりすることができます。

### ■編集設定を有効にする

各編集設定を有効にします	
設定開始	
編集設定 1 を有効にする	
編集設定 2 を有効にする	
編集設定 3 を有効にする	
編集設定 4 を有効にする	
編集設定 5 を有効にする	
編集設定 6 を有効にする	
編集設定 7 を有効にする	
編集設定 8 を有効にする	
設定終了	

## ■編集設定を無効にする

各編集設定を無効にします	
設定開始	 Z Z
編集設定 1 を無効にする	 A O K
編集設定 2 を無効にする	 A O L
編集設定 3 を無効にする	 A O M
編集設定 4 を無効にする	 A O N
編集設定 5 を無効にする	 A O O
編集設定 6 を無効にする	 A O P
編集設定 7 を無効にする	 A O Q
編集設定 8 を無効にする	 A O R
設定終了	 Z Z

## 4-8 オプション設定

その他のオプション設定です。

『全バーコードを転送する』は編集設定で処理されたデータ、されなかったデータ含め全てのデータを転送します。

『有効なバーコードのみ転送する』は編集設定で処理されたデータのみ転送します。編集設定に該当しないものは転送されなくなります。

『未処理ブザーを有効にする』は編集設定で処理した結果、出力するものがなかった場合等に警告音が鳴ります。

『未処理ブザーを無効にする』は編集設定で処理した結果、出力するものがなかった場合等に警告音が鳴りません。

各種オプション設定を行います ★印は初期設定	
設定開始	 Z Z
全編集設定をリセットする	 A O \$
★全バーコードを転送する (編集設定で処理されたデータ含む)	 A O U
有効なバーコードのみ転送する (編集設定で処理されたデータのみ)	 A O V
★未処理ブザーを有効にする	 A O +
未処理ブザーを無効にする	 A O -
設定を保存する	 A 1 F
設定終了	 Z Z

## 4-9 設定例

例 1) CODE-39 のデータの 2 桁目から 5 桁目まで表示したい場合（抽出動作例）

順番	設定項目	参照先
1.	『設定開始』	
2.	『編集設定 1』	「4-2 編集設定選択」
3.	『バーコード ID を指定する』	「 <input checked="" type="checkbox"/> バーコードIDの設定」
4.	『CODE-39』	「4-6 バーコードID表」
5.	『バーコード長を指定しない』	「 <input checked="" type="checkbox"/> バーコード長の設定」
6.	『バーコードキャラクタを指定しない』	「 <input checked="" type="checkbox"/> バーコードキャラクタの設定」
7.	『前方位置から開始』	「 <input checked="" type="checkbox"/> 出力ビルド」
8.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
9.	『1』	「付録 1 直接入力コード表」
10.	『パート長』	「 <input checked="" type="checkbox"/> 出力ビルド」
11.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
12.	『4』	「付録 1 直接入力コード表」
13.	『キャラクタを置換しない』	「 <input checked="" type="checkbox"/> キャラクタ置換」
14.	『出力長を変更しない』	「 <input checked="" type="checkbox"/> 出力長の変更」
15.	『設定を保存する』	「4-8 オプション設定」
16.	『設定終了』	

出力結果

- 3 桁の CODE-39 「123」 の場合 ⇒ 「23」  
 4 桁の CODE-39 「1234」 の場合 ⇒ 「234」  
 5 桁の CODE-39 「12345」 の場合 ⇒ 「2345」  
 6 桁の CODE-39 「123456」 の場合 ⇒ 「2345」

例2) 8桁のデータで、"-"が入っているものを取り除きたい場合（置換の例）

順番	設定項目	参照先
1.	『設定開始』	
2.	『編集設定 1』	「4-2 編集設定選択」
3.	『バーコード ID を指定しない』	「■バーコードIDの設定」
4.	『バーコード長を指定する』	「■バーコード長の設定」
5.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
6.	『8』	「付録 1 直接入力コード表」
7.	『バーコードキャラクタを指定しない』	「■バーコードキャラクタの設定」
8.	『前方位置から開始』	「■出力ビルド」
9.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
10.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
11.	『後方位置で終了』	「■出力ビルド」
12.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
13.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
14.	『キャラクタを置換する』	「■キャラクタ置換」
15.	『-』	「付録 1 直接入力コード表」
16.	『出力長を変更しない』	「■出力長の変更」
17.	『設定を保存する』	「4-8 オプション設定」
18.	『設定終了』	

出力結果

8桁のデータ「12345678」の場合 ⇒ 「12345678」

8桁のデータ「123-4567」の場合 ⇒ 「1234567」

8桁のデータ「123-45-6」の場合 ⇒ 「123456」

例 3) "-"以降のデータを先頭に出力し、 "-"以前のデータを後ろに出力し、区切りとして","を入れた場合（複合設定の例）

順番	設定項目	参照先
1.	『設定開始』	
2.	『編集設定 1』	「4-2 編集設定選択」
○マッチング条件		
3.	『バーコード ID を指定しない』	「■バーコードIDの設定」
4.	『バーコード長を指定しない』	「■バーコード長の設定」
5.	『バーコードキャラクタを指定しない』	「■バーコードキャラクタの設定」
○ビルド設定		
6.	『キャラクタから開始(キャラクタ除く)』	「■出力ビルド」
7.	『-』	「付録 1 直接入力コード表」
8.	『後方位置で終了』	「■出力ビルド」
9.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
10.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
11.	『キャラクタを追加する』	「■出力ビルド」
12.	『,』	「付録 1 直接入力コード表」
13.	『前方位置から開始』	「■出力ビルド」
14.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
15.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
16.	『キャラクタで終了(キャラクタ除く)』	「■出力ビルド」
17.	『-』	「付録 1 直接入力コード表」
○最終設定		
18.	『キャラクタを置換しない』	「■キャラクタ置換」
19.	『出力長を変更しない』	「■出力長の変更」
20.	『設定を保存する』	「4-8 オプション設定」
21.	『設定終了』	

#### 出力結果

データ「12345678」の場合 ⇒ 出力されません

データ「123-4567」の場合 ⇒ 「4567, 123」

データ「123-45-6」の場合 ⇒ 「45-6, 123」

キャラクタから開始では、同じキャラクタが二つ以上あると、期待した結果が得られない場合があります。その場合、除外を指定することで対応できる場合があります。

5と6の設定の間に、1つ目の“-”を除外するように設定すると異なる結果になります。

5と6の間に除外を入れる例(1つ目の“-”を除外する)

E1	『キャラクタから除外開始(キャラクタ含む)』	「■除外パート」
E2	『-』	「付録1 直接入力コード表」
E3	『パート長』	「■除外パート」
E4	『0』	「付録1 直接入力コード表」
E5	『1』	「付録1 直接入力コード表」

5と6の間に除外を入れた場合の出力結果

データ「12345678」の場合 ⇒ 出力されません

データ「123-4567」の場合 ⇒ 出力されません

データ「123-45-6」の場合 ⇒ 「6, 123-45」

例 4) 6桁を超えた場合は先頭を削除し、6桁未満の場合は先頭に0を挿入して、最終的に6桁固定で出力させたい場合（出力固定にする例）

順番	設定項目	参照先
1.	『設定開始』	
2.	『編集設定 1』	「4-2 編集設定選択」
○マッチング条件		
3.	『バーコード ID を指定しない』	「■バーコードIDの設定」
4.	『バーコード長を指定しない』	「■バーコード長の設定」
5.	『バーコードキャラクタを指定しない』	「■バーコードキャラクタの設定」
○ビルド設定		
6.	『前方位置から開始』	「■出力ビルド」
7.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
8.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
9.	『後方位置で終了』	「■出力ビルド」
10.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
11.	『0』	「付録 1 直接入力コード表」
○最終設定		
12.	『キャラクタを置換しない』	「■キャラクタ置換」
13.	『出力長を変更する（前方挿入-前方削除）』	「■出力長の変更」
14.	『0』（出力長：4桁）	「付録 1 直接入力コード表」
15.	『0』（出力長：4桁）	「付録 1 直接入力コード表」
16.	『0』（出力長：4桁）	「付録 1 直接入力コード表」
17.	『6』（出力長：4桁）	「付録 1 直接入力コード表」
18.	『0』（挿入時のキャラクタ：1桁）	「付録 1 直接入力コード表」
19.	『設定を保存する』	「4-8 オプション設定」
20.	『設定終了』	

#### 出力結果

4桁のデータ「1234」の場合 ⇒ 「001234」

6桁のデータ「123456」の場合 ⇒ 「123456」

8桁のデータ「12345678」の場合 ⇒ 「345678」

## 5 付録

### 付録 1 直接入力コード表

プリフィックスおよびサフィックス、GS1-128 読み取り設定、データウィザードで使⽤します。  
使⽤する設定によっては、設定できないものもあります。

#### ■直接数字入力

直接数字入力一覧	
0	 Q 0
1	 Q 1
2	 Q 2
3	 Q 3
4	 Q 4
5	 Q 5
6	 Q 6
7	 Q 7
8	 Q 8
9	 Q 9

## ■直接アルファベット大文字入力

直接アルファベット入力（大文字）一覧	
A	 0 A
B	 0 B
C	 0 C
D	 0 D
E	 0 E
F	 0 F
G	 0 G
H	 0 H
I	 0 I
J	 0 J
K	 0 K
L	 0 L
M	 0 M
N	 0 N
O	 0 O
P	 0 P

直接アルファベット入力（大文字）一覧	
Q	 0 Q
R	 0 R
S	 0 S
T	 0 T
U	 0 U
V	 0 V
W	 0 W
X	 0 X
Y	 0 Y
Z	 0 Z

## ■直接アルファベット小文字入力

直接アルファベット入力（小文字）一覧	
a	
b	
c	
d	
e	
f	
g	
h	
i	
j	
k	
l	
m	
n	
o	
p	

直接アルファベット入力（小文字）一覧	
q	 \$ Q
r	 \$ R
s	 \$ S
t	 \$ T
u	 \$ U
v	 \$ V
w	 \$ W
x	 \$ X
y	 \$ Y
z	 \$ Z

## ■直接キーボードキー入力

直接キーボードキー入力一覧	
F1	 8 J
F2	 8 K
F3	 8 L
F4	 8 M
F5	 8 N
F6	 8 O
F7	 8 P
F8	 8 Q
F9	 8 R
F10	 8 S
F11	 8 T
F12	 8 U
Backspace	 9 X
Tab	 7 H
Enter	 7 I
Enter (Tenkey)	 7 Q
ESC	 7 J

直接キーボードキー入力一覧	
↓	 7 K
↑	 7 L
→	 7 M
←	 7 N
<DEL>	 7 T
<INSERT>	 V Q
<HOME>	 V R
<END>	 V S
Page up	 7 0
Page down	 7 P
左<Shift>	 7 U
左<Ctrl>	 7 W
左<Alt>	 7 Y
右<Shift>	 7 V
右<Ctrl>	 7 X
右<Alt>	 7 Z
CapsLock	 9 S

## ■直接記号入力

直接コード入力一覧	
<SPACE>	
!	
"	
#	
\$	
%	
&	
'	
(	
)	
*	
+	
,	
- (Hyphen)	
.	
/	

直接コード入力一覧	
:	 6 A
;	 6 B
<	 6 C
=	 6 D
>	 6 E
?	 6 F
@	 6 G
[	 7 A
¥	 7 B
]	 7 C
^	 7 D
— (UnderBar)	 7 E
`	 7 F
{	 9 T
	 9 U
}	 9 V
~	 9 W

## ■直接制御キャラクタ入力

直接制御キャラクタ入力一覧	
Ctrl + @	 9 G
Ctrl + A	 1 A
Ctrl + B	 1 B
Ctrl + C	 1 C
Ctrl + D	 1 D
Ctrl + E	 1 E
Ctrl + F	 1 F
Ctrl + G	 1 G
Ctrl + H	 1 H
Ctrl + I	 1 I
Ctrl + J	 1 J
Ctrl + K	 1 K
Ctrl + L	 1 L
Ctrl + M	 1 M
Ctrl + N	 1 N
Ctrl + O	 1 0

直接制御キャラクタ入力一覧	
Ctrl + P	 1 P
Ctrl + Q	 1 Q
Ctrl + R	 1 R
Ctrl + S	 1 S
Ctrl + T	 1 T
Ctrl + U	 1 U
Ctrl + V	 1 V
Ctrl + W	 1 W
Ctrl + X	 1 X
Ctrl + Y	 1 Y
Ctrl + Z	 1 Z
Ctrl + [	 9 A
Ctrl + ¥	 9 B
Ctrl + ]	 9 C
Ctrl + ^	 9 D
Ctrl + _	 9 E

## ■コード長入力

コード長入力一覧	
コード長	

## 付録 2 サンプルバーコード

### ●JAN-13



### ●JAN-8



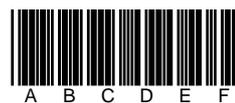
### ●UPC-E



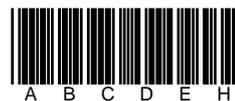
### ●NW-7



### ●CODE-39



### ●CODE-39 (C/D付き)



### ●インターリブド 2of5



## ●インターリブド 2of5 (C/D付き)



## ●CODE-128



## ●GS1-128



---

**Stream7R-USB/Touch7R-USB 共通  
システム設定マニュアル**

---

2013 年 1 月発行 第 1 版

Copyright©2013 Welcat Inc.

**株式会社ウェルキャット**

<http://www.welcat.co.jp/>

[info@welcat.co.jp](mailto:info@welcat.co.jp)